

昨年果たせなかった単独総合優勝を目指す

第65回上南戦

7月5日～7日、南山大学で開催

1960年の第1回大会から半世紀以上続く伝統の一戦、上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)が今年も行われる。

同じカトリック大学で名古屋にある南山大学と、互いの大学を会場にして対抗試合や文化系団体の交流を図るもので、数十種目の競技を行い総合成績で勝ち数が多い大学が優勝となる。第65回となる今回は、南山大学を主催校として7月5日から7



日の3日間にかけて開催される。

上南戦実行委員会委員長の瀬山大稀さん(法国3)に、今年に懸ける意気込みを聞いた。

▼今年のスローガンや目標は

スローガンは「Regain」です。前回大会では、両校総合優勝という悔しい結果でした。今年は必ずや単独総合優勝を果たし、強い上智を取り戻すという我々の熱い思いが込められています。1、2勝差での優勝ではなく、「上智が勝ち切った」としっかり言えるような結果を目指します。また、実行委員会の立場としては、上南戦が大きなトラブルなく運営できることを目標としています。特に昨年はスケジュール面で幾つか問題があったため、その反省を生かし、進捗管理には特に気を使っています。

▼今年の上南戦の見どころは

オープニングゲームとなるハンドボールの試合をぜひ見てほしいです。観客数も多く、一番の盛り上がりを見せるため、まずはここから見てほしいです。また、ラグビーも毎年結果が良いので、応援も盛り上がると思います。

▼今年には特にグッズに力を入れているようですが

グッズの企画開発にはかなりこだわりました。上南戦のラベルのミネラルウォーターを作ったり、タオルのデザインを大幅リニューアルしたりしました。特にタオルは、これまでではえんじ色がベースカラーでしたが、今年はピンク色のデザインを採用したところ、各団体への事前の発注数調査段階で例年の2倍近い発注を頂けています。



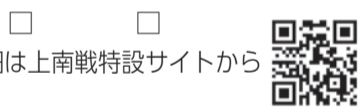
▼所属する卓球部の試合の見どころは

卓球は試合が男女で分かれていますので、言い換えると勝敗が2競技分あります。そのため、全体への影響が大きいです。男女両方も勝ち、単独総合優勝へとつなげたいです。私は団体戦に出るので、チームにしっかりと貢献したいと思います。

▼最後に、委員長として選手や応援してくれる上智生へメッセージをお願いします

試合に出る選手たちにとっては、自分たちの1勝が上智の単独総合優勝に大きく関わります。私たちも全力で応援しますので、精一杯頑張ってください。試合に出ない選手たちも、自分たちのサポートが必ずよい結果につながると信じています。我々と一緒にサポート面でも頑張ってください。

また、上南戦は体育会学生だけのイベントと思われがちですが、上智大学として南山大学と試合を行うので、体育会以外の学生の皆さんに少しでも関心を持っていただきたいです。皆さんの友人や知人に、体育会学生がいる場合は、「上南戦、頑張ってください！」と一言声をかけてくれたら本当に嬉しいです。ぜひとも応援をよろしくお願いたします。



リニューアルした上南戦タオル

第65回上南戦タイムスケジュール(試合時間)

Table with columns for Date, Location, Time, and Event details for the tournament.

ひと 歴史と芸術を通して 見えてきた志

歌、芝居、舞、美術などさまざまな要素が一体となり、古くから観る者を楽しませてきた伝統芸術「能」。700年以上の歴史を持つ日本最古の演劇に魅了され、由緒ある芸術を未来に継承したいと日夜稽古に励む学生がいる。松本 怜生さん(国教2)だ。



国際教養学部 国際教養学科2年 松本 怜生さん

7年前の夏、初めて見た能の舞台上、その身一つで景色や心情を表現する斬新さに心を奪われた。自身も舞台に立ちたいと宝生流能楽師の藪克徳氏に師事し、技法や心意の手ほどきを受けてきた。「細やかな所作、迫力のある演技、力強い声楽、どれもまだまだ先生の足元にも及びませんが、いつか熟達できるよう修行の日々です」。

小さい頃から歴史が好きだった。「人間がいにしえの時代からどう生きてきたのか、社会や文化がどのように成り立ってきたのか、そういったことを考えるととてもワクワクしていました」。

アメリカ人の父親と日本人の母親をもつ松本さんは、自身のルーツに思いをはせることも多いという。「はるか昔から受け継がれてきた命のバトン。今を生きる自分の役割やアイデンティティについて、よく自問しています」。

キャンパスでは、宗教史や哲学史に関心を寄せる。各時代、各地域に

おいて諸宗教がどのように発展してきたのか。人間の思想面からアプローチすることで、現代にも通ずる普遍的な価値が見えてくるという。「人生の目的、人類と自然の関わり、そして価値あるものを未来に遺そうとする営み、いずれも古代から模索されてきたもので、現代を生きるうえでも避けては通れません」。

歴史を学び、伝統芸術を修めることで、人生の志もおぼろげながら見えてきた。

「能をとことん突き詰めて、自分が納得できる演舞を披露することが、伝統文化へのリスペクトになると思っています。小さい頃から夢中になっていた歴史。先人の思いや文化を未来に伝えていくことが、自分の生き方なのかと思っています」。

「上智地球市民講座」 2024年10月開講 7月募集開始



10月から「上智地球市民講座」秋学期が開講します。新たな学びにチャレンジしたい方の積極的な参加をお待ちしています。

- 対象：社会人、大学生、高校生はじめ、すべての方
●開講時期：秋学期10～11月
●開講形態：対面・オンライン・ハイフレックスのいずれか
●講座数：秋学期19講座 1講座講義4回(1回90分)
●受講料：1講座12,000円/割引対象者 1講座10,000円
●申込期間：2024年7月1日(月)～

Table listing lecturers and titles for the Earth Citizen Lecture series.

Table listing lecturers and titles for the Earth Citizen Lecture series.

※詳細・お申込はこちらから

